

# TIRI NEWS EYE

最近注目されている技術を  
取り上げご紹介します

第1回

## クラウド

多くの人が利用し始めているクラウド。一方、ビジネスにおけるクラウドの利活用では、模索段階にある企業も多いようです。その実情をITベンダーに伺いました。



クラウドとは

データをインターネット上に保存する  
使い方やサービス

### コスト削減につながるクラウド

本社や各拠点に設置されていたサーバーを、クラウドを活用したシステムに置き換える動きが活発になっています。IT企業や商社、グローバル展開をする小売店などは、クラウドベースの情報管理システムにメリットを見いだしています。

「メリットは、コストの削減や情報の一元管理ができる点です。自前で構築したシステムの運用管理コストに負担を感じている場合や、自社グループ内に複数の管理システムを持っているような場合にクラウドは有効です。」

((株)NTT データ 中井氏)

クラウドを活用してシステム運用をアウトソーシングすることが、システム管理者を置くために必要なコストの削減につながり、トータルコストで有利になる可能性が高く、複数の海外拠点ごとに別個のシステムを持っているような場合に

は、クラウドに置き換えることで、バラバラだった情報の管理を容易に一元化・共通化することができます。

### 仮想化技術とクラウド

クラウドの特徴とは何なのでしょう。

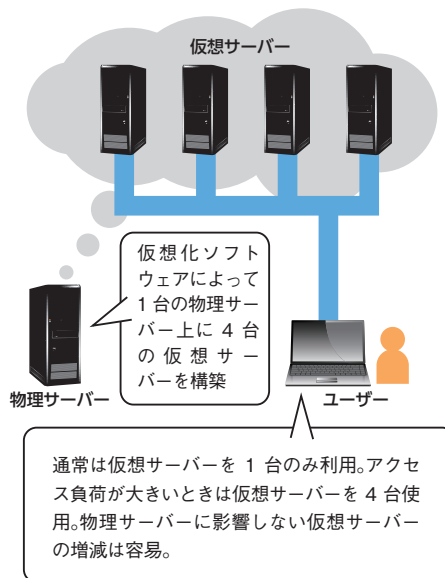
「いくつか挙げられますが、その一つがハードウェアの仮想化（ソフトウェア化）です。これはクラウド以前の技術ではできなかったことです。」

((株)NTT データ 中井氏)

多大な労力と時間を伴う物理的に結線されたハードの増強や削減が、現在はコンピューターの仮想空間上に構築されたシステムプログラムの変更だけで済んでいます。

「年に数回しかないような業務が集中するときだけ、ハードウェアを増強したいというニーズは以前からありました。それを速く・容易に、かつコストを抑えて実現できるようになったのは、クラウドが登場したからです。」

((株)NTT データ 中井氏)



### 働き方・言葉の壁とクラウド

テレワークなどにおいてもクラウドの利活用が進んでいます。では、技術者や研究者の仕事そのものは、クラウドで変わらないのでしょうか？

「会議のために現地に赴くという仕事は、クラウドを介したオンライン会議で代替できるという機会も増えてくるでしょう。」  
(日本マイクロソフト(株) 岡部氏)

実際、企業では専用設備を必要としない作業にクラウドを活用し、時間の有効活用や BCP 対応が進められています。働く上でより効率の良い環境がクラウドで実現するなら、活用していくべきといえます。

しかし、距離や場所を隔てる壁がインターネットの登場によって低くなった一方で、言葉の壁は乗り越えがたい壁として存在しています。

「20年以上前から弊社でも言語処理の研究に取り組んでおり、クラウドを介した翻訳サービスのテストをしている段階です。今後クラウドが発展していくなかで、言葉の壁も越えていけるかもしれません。」

(日本マイクロソフト(株) 岡部氏)

### クラウドと日本のものづくり

オープンなシステムであるクラウドは、グローバル展開を目指す企業や事業向きだといえます。日本のものづくり企業が持つノウハウや職人技をITやクラウドとどう組み合わせていくかは、お話を伺った2社でもまだ模索段階です。企業内で直接クラウドが活用されていなくても、さまざまな企業活動や生活の中でのクラウドの利活用が進められており、必須のツールとなっていくと考えられます。

#### 取材協力

##### 中井 章文氏

株式会社NTT データ  
ビジネスソリューション事業本部・  
クラウドコンピューティング事業部・  
開発統括部  
統括部長

##### 岡部 一志氏

日本マイクロソフト株式会社  
社長室・コーポレートコミュニケーション部  
部長  
(順不同)